

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『うるわしのソレントへ行く』

2017年7月7日

債券運用部

今年の夏季休暇は、イタリア南部のナポリからさらに南に位置するソレントや、世界一美しいと言われる世界文化遺産アマルフィ海岸へ行くことにした。イタリア南部は、「帰れソレントへ」や「フニクリ・フニクラ」、「サンタ・ルチア」等のナポリ民謡（カンツォーネ）が有名なので身近に感じる方も多いのではないだろうか。

イタリアは、歴史や芸術、ショッピング、グルメなどに加えて、世界遺産登録数が世界一であるなど見所がたくさんあり、多くの観光客が訪れる。国連世界観光機関（UNWTO）によると、2015年の世界各国・地域への外国人訪問者数ランキングは、第1位フランス（8445万人）、第2位米国（7751万人）、第3位スペイン（6821万人）、第4位中国（5688万人）と続き、イタリアは第5位（5073万人）である。因みに日本は16位（1973万人）だ。ただ、旅行先としては魅力的なのだが、以前にローマから北部を訪れた際には困ったこともあった。旅行中よくお釣りをごまかされたことだ。レストランや小売店のみならず、ヴァチカン美術館や地下鉄の職員でさえお釣りを躊躇なくごまかす。そのうち慣れてきて、お釣りをもらってもその場を離れず金額を確認し、ごまかされていれば彼らに伝えるようにした。すると、彼らは笑顔で不足額を返してくる。一般的にイタリア人は陽気で明るい性格と言われるが、こうしたやり取りも楽しんでいるようにすら思えた。

ユーロ圏は、直近のフランス国民議会選挙やイタリア地方選挙でポピュリズム（大衆迎合主義）政党の衰退が鮮明となり、欧州政治リスクが後退した。加えて、域内経済は内需の堅調さを背景にプラス成長が継続している。一方で、イタリアはユーロ圏諸国の中でも、不安材料の残る国と言える。経済については、2016年のGDP成長率がドイツ（前年比+1.8%）、フランス（同+1.2%）、オランダ（同+2.1%）、スペイン（同+3.2%）に対し、イタリアは同+0.9%にとどまる上、今後も低成長が予想されている（出所：IMF—World Economic Outlook Database, April 2017）。他にも、銀行部門の不良債権問題や政府債務残高比率が高水準であるなど、不安材料は払拭できていない。

前述した「帰れソレントへ」は、ソレントの美しい自然と一人の男性の恋心を描く歌であり、長調と短調の転調を繰り返す。明るく澄んだ印象を受けたかと思えば、悲しく暗い印象を受ける。本来は街を去った恋人に戻ってきて欲しいと願う歌だが、私には、物悲しいメロディーによりイタリアの抱える諸問題が連想される。コバルトブルーの美しい地中海を望みながら、イタリアの発展に期待をこめて旅行してこようと思う。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。